

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070501083		
法人名	特定非営利活動法人 ひまわりの家		
事業所名	グループホーム すまいる		
所在地	群馬県太田市飯田町631		
自己評価作成日	平成24年10月 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成24年10月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の残存機能を活かし、日々、心穏やかに満足感を抱いて生活を楽しんでいただく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の年齢や身体レベルに応じた役割分担が用意されている。利用者は自分の出来ることには積極的に参加することで、サービスを受けるのではなく、共に生活するという意識を持ちながら、生きがいを持って過ごしている。昼食時に利用者が下ごしらえ・テーブルふき・おしぼり配り・配膳・下膳・食器ふき等を進んで行っている姿からも、残存機能を活かしながら、生活を楽しくて欲しいという事業所の思いが感じられる。現在、代表者は利用者の個々の希望を大切に考えた対応をしており、今後とも可能な限り要望に沿った個別の対応に取り組んでいきたいと考えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者個人を尊重し、住み慣れた地域で日々穏やかに暮らせるよう支援していくことを全職員が共通理解している。	地域との関わりを盛り込んだ理念を作成しており、玄関に掲示している。職員入職時には理念について説明している。職員会議においても折に触れて話し合いを持って実践に繋いでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ぐるみの行事に参加可能な利用者と共に参加したり、家族会や運営推進会議を通じ、理解と協力を得られるよう取り組んでいる。	自治会に加入し、現在代表者が組長を務めている。民生委員を通して、敬老会に出席したり、九合の住民センターの文化祭に参加して交流の機会を作っている。地域のクリーン作戦の一環としての地元公園の清掃に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通して、地域の方々に認知症や事業所の取り組みについて理解と協力を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加して頂いた方々に利用者の生活を見て頂き、利用者や活動の状況を説明し、参加者の意見を職員会議で発表し、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は年に6回開催している。行政関係者(全会議には出席していない)・区長や民生委員・家族(回り番)・事業所関係者の参加で意見交換が行われている。区長・民生委員等から地域の情報を得て行事等に参加するようになった。	会議のメンバーである家族・行政・地域住民の代表・ホーム関係者の全てが参加出来るように日程の調整をして、運営推進会議がより意義のあるものにして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村が実施する、高齢者のための行事等への参加を通して、事業所の取り組み等を理解して頂き、協力関係を維持できるよう取り組んでいる。	市の担当者との連絡や相談事は主に代表者や法人の事務担当者が行っている。市で開催の会議や行事には管理者・ケアマネジャーも参加しており、情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が、やむをえない場合を除いて、身体拘束をしない方針でケアに取り組んでいる。	日中は玄関の鍵をかけず、見守り等により自由な暮らしを支援している。車椅子からベットに移る場合、家族の了解のもと、ベット手すりの固定があったが、現在は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の勉強会で関連法を提示し、管理者や介護支援専門員が説明し、職員全員の理解と実践に努めている。施設全体で虐待を見逃さないよう注意し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の勉強会で資料を提示し、管理者や介護支援専門員が説明し、各職員がその必要性和内容を十分理解できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書、重要事項説明書の内容は十分に説明し、不安な箇所に対する質問には納得がいくまで説明し、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で、自分の担当である職員に意見や不満等を遠慮なく話せる状況をつくるようにしている。また、受診等で来所の際に、ご家族にホーム内でのことや利用者の様子などを伝えているため十分理解して頂いている。	担当制をとっているため、利用者とは個別に会話をする機会が多く、気兼ねなく話せる関係が出来ている。家族等の要望等は会議や訪問時に聞いている。利用者の希望により個別対応で外出することもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設玄関に苦情・意見等に関する意見箱を設置している。また、重要事項説明書に外部者への苦情の連絡先を記載している。	管理者は会議時や、日ごろの職員の様子を見て要望や意向等を聞いている。積極的に自己の考えを表明する職員もおり、希望休や介護についての要望や意向は尊重し、反映させるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場サイドの職員に、できるだけ直に接する機会を増やし、努力や心情を理解するよう心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月例職員会議の勉強会で各視点から問題提起をして、全職員で研修に取り組んだり、外部の研修にも希望者は参加できる体制を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会のレベルアップ研修(他ホームとの相互研修)に順次参加してもらっている。また、各研修にも希望者は参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各利用者に担当職員を決め、不安なこと、困っている事等何でも相談できる状況を整え、あらゆる不安が軽減できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にもらう情報提供書に基づき家族と面接し、不安なことや困っている事等何でも話せる状況を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族との話し合いで、ニーズに添ったサービスを検討していただき、当事業所での支援内容を十分理解していただいた上で選択して頂けるよう支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々の得意な事柄等を把握し、日常生活の中で色々学んだり、共感し支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会や来所時に出された家族のニーズや要望に誠実かつ迅速に対応し、受診の付き添いや外出等を通じて、利用者の状態を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで築いてきた人間関係をできる限り維持できるよう、関係者の方々の協力を得ながら支援している。	友人が訪問した時には、気持ちよく過ごせるように配慮している。利用者の昔からのこだわりの品物を買ってくる等、思いを大切にしている。これまで家族が面会に来ていたが、体調を崩して来訪できなくなったので、利用者を家族の住む自宅へお連れしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活を十分に観察し、孤立しそうな利用者がいたら席替え等の工夫をし、他とのコミュニケーションを図れるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も入院(入居)先に時々面会に行き、受け入れ先の担当職員等より情報を得て、状況把握に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、一人ひとりの希望や意向の把握に努め、傾聴を通して思いや希望を引き出せるよう、観察に努めている。	自己の思いを表明出来る利用者も多いが、日ごろから利用者と向き合い、言動や会話などから思いや要望を把握するようにしている。家族等からの情報を参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族等から情報を得たり、日常の雑談の中から生活歴や暮らし方を聞き取り、調査表等に記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居して間もない利用者の生活リズムが安定するまでの期間、記録・観察をこまめに行い、その人の生活全般の流れを把握するよう努めている。安定後も生活記録にて把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の日常生活を観察し、本人家族ともよく話し合い、要望や意見を反映した介護計画を作成している。	介護計画は本人・家族、担当職員の意向等を踏まえて作成している。毎月のモニタリングと3ヶ月に1回の計画の見直しをしている。状況に変化が見られた時には随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録やミーティングの報告事項を参考にしてモニタリングを行い、支援経過記録を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	高齢者の要介護度の高度化増加に伴い、高介護度の方の受け入れが可能となるよう、サービス機能の改善に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の開催を通して、区長・民生委員・消防及び教育関係者の協力と理解を頂き、利用者を支えていく中で協働し支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に、入居以前からのかかりつけ医に受診していただいているが、新たな疾病が出現した場合には、ホーム側からも適切な医療機関を紹介している。	基本的には、それまでのかかりつけ医と希望により協力医支援がある。受診は家族同行が基本だが、職員が受診同行することもある。夜間等の緊急時は指定医か救急車対応となっている。訪問歯科は希望により受診出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が勤務している為、日常の健康管理等のアドバイスを得て、全職員が職務の参考にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も定期的に利用者の様子観察に向き、病院関係者と情報交換を行い、早期退院に向けての相談等を常にできるような関係性を築けるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者家族との話し合いにより、重度化した際の対応策として、介護老人福祉施設等の入居申し込みをして頂いている。	事業所としての重度化や看取りについての基本的な方針は出来ていない。現在は介護老人福祉施設等を紹介している。	事業所が対応し得る指針を作成し、重要事項説明書等への記載についての検討をして欲しい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が利用者の急変時や事故等の緊急時に備えて、初期対応の仕方を実践できるよう指導に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な災害時の避難訓練を行い、職員や利用者が共に安全に避難できる方法を実践できるよう努めている。	1年間に2回の避難誘導訓練(昼夜想定)を行っている。備蓄としてコンロ・水・米・毛布・おむつ等の用意がある。	災害時に避難誘導がスムーズに行われるよう、年間を通じた自主訓練の実施を検討して欲しい。備蓄品の更なる充実を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的に、できるだけ家庭的な雰囲気を保てるよう、親近感がありかつ尊厳を保てるような対応を心がけ、各利用者のプライバシーを尊重できるよう努めている。	利用者の個性を尊重した対応を心がけている。プライバシーや尊厳を大切にし、着替えの場所の配慮をしたり、会議時には個人名の使用をしていない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険や問題が無い限り、利用者の意思を尊重するように努めている。利用者本人が思いをうまく表出できないような時には、様子観察しながら、意思の実現にできるだけ近づけるよう働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日常の行動(食事・入浴・体操・レクリエーション等)以外は、利用者のペースに合わせて生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備や外出時には、利用者の好みの服を選んでもらい、着用していただいている。希望に沿い、訪問理美容も利用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厭立を決める際に利用者にとって食べたいものは何かを尋ねたり、一緒に外出が可能な時は、買い物に出かけ選んでいただいている。食材の下ごしらえや調理の仕上げ、盛り付け、配膳や下膳も利用者に協力していただいている。	利用者の食べたい物が翌日の昼食に提供される等、利用者中心の食事が提供されている。時には食材の買い物に利用者も出かけている。利用者はテーブルふき・食材の下ごしらえ・盛り付け・配膳・下膳等を積極的に行っている。職員は見守りだけで利用者と一緒に食事はしていない。	同じテーブルで、利用者と職員が同じ食事を味いながら楽しい時間を過ごすことは一日の流れの中でも大切な生活の一部と思われる。食事を一緒に楽しむ方向の再度の検討をお願いしたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	味覚障害や食が進まない方等の必要を考慮し、栄養摂取のための工夫に努めている。水分量の確保に関しては、各利用者が飲みたいときに水分補給ができるよう環境を整え、また声かけをし、各利用者の必要に対応できるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各利用者の状態に合わせて、口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の状態や希望、そして必要を考慮し、排泄の支援を行っている。	介助の必要な利用者は排泄チェック表により、言葉かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。自立の方の排便は自己申告となっている。夜間、おむつ使用者に対しては排泄介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の状態を考慮し、施設内での歩行訓練やおやつ時の漢方薬摂取等により予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の都合により入浴が困難な場合は、臨機応変に対応している。気分により、入浴したくない利用者がある時には、日をずらす等で入浴して頂くなどの配慮をしている。	入浴日は月・火・木・金の午前中となっており、基本的には週に2回の入浴支援をしている。拒否のある時には日をずらしたり、シャワー浴での対応をしている。	職員の都合ではなく、利用者の気分や希望を大切に考えた入浴支援を検討して欲しい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者のプライベートな時間や空間の確保に努め、各自が望む状況をできる限り提供できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が各利用者の身体状況や処方薬について理解し、服薬管理と状況把握、様子観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者にしたいたいこと等の希望を伺い、時間はかかったとしても実現できるよう支援している。日々の生活の中で、役割を持ってもらい、達成感や張り合い等を感じ生活できるようその実践に協力できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や花の手入れや水やり等、戸外での気分転換が図れるよう支援している。遠方へのドライブ等が楽しめるよう、季節を考慮し、定期的に外出できるよう努めている。	近隣の散歩・買い物・ドライブ・小旅行・お弁当持参の花見など、体調や希望に合わせて外出の機会を作っている。お正月開催のマラソン大会を施設前で応援するのが楽しみとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事で安心できる利用者もいますので、家族の理解を得た上で、所持および使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿い、自由に電話をかけたり手紙を送るなど、必要があれば職員が代行(代筆)するよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者がどこにいても明るく快適に過ごせるよう配慮し、特に居間は利用者が長時間過ごす場所であり、室温や娯楽、季節感等常に工夫し、安心して過ごせるよう、努めている。	食堂兼居間となっているホールから、隣家の草や葡萄、通りを走る車や人の往来等が居ながらにして一望出来るよう、設計に工夫が見られる。ホールに隣接した厨房は対面式となっており、食事作りの様子や匂いを楽しむ事で、生活感を実感出来るようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者が過ごされる席の位置や利用者同士の関係性等を配慮し、快適に過ごせる環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の希望に沿い、家具の配置等に配慮し、心地よく過ごせる環境整備に努めている。	整理タンス・籐の椅子・テレビ・化粧バック・鏡等を持ち込んで、其々が個性のある居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各設備の場所が分かりやすいよう工夫し、できるだけ自立生活を促せるよう努めている。		